

問七 傍線部⑥とあるが、なぜ帝は笑ったのか。(1)は指定に従って、(2)(3)は各々選択肢より選び記号で答えよ。

道兼は肝試しの途中で引き返し、(1 本文から十五字以内)と進言したが、帝は(2)から引き返したことを見抜いており、引き返す口実に帝への(3)を持ち出したことがおもしろかったから。

《選択肢》

ア 羞恥心 イ 利己心 ウ 恐怖心 エ 対抗心 オ 克己心 カ 忠誠心

問八 傍線部⑦と同意の部分の六字で抜き出せ。

問九 傍線部⑧・⑨について

(1) 共通して直下に補える語を三字で答えよ。

(2) 共通する文法的説明として最も適切なものは次のうちどれか。

ア 断定の助動詞＋過去の助動詞

イ 断定の助動詞＋疑問の係助詞

ウ 完了の助動詞＋過去の助動詞

エ 完了の助動詞＋疑問の係助詞

問十 傍線部⑩を現代語訳せよ。

問十一 本文に合致するものは次のうちどれか。

ア 入道殿は肝試しから平然とした様子で帰ってきたが、実際は怖いと思っていた。

イ 中関白殿は得体の知れない声が聞こえていたが、我慢して肝試しを続行した。

ウ 栗田殿は激怒している入道殿に恐れて、何も言うことができなかった。

エ 花山天皇は入道殿が本当に肝試しの目的地まで行ったのかを疑った。

問十二 出典と文学ジャンルを答えよ。